

八月の天象

太 陽

日	赤經	赤緯	星座	視直經
1	8時45分	北18度 5分	かに	31分34秒
11	9 23	15 21	しし	31 37
11	10 0	12 12	しし	31 41
31	10 37	8 44	しし	31 45

先月始め頃視直經は31分31秒の最小値であつたが、其の後、次第に増加しつゝある。月末、太陽の廻轉軸は、地球の方へ向つて最も大きく傾き、(7度)北極の方を吾人に見せてゐる。

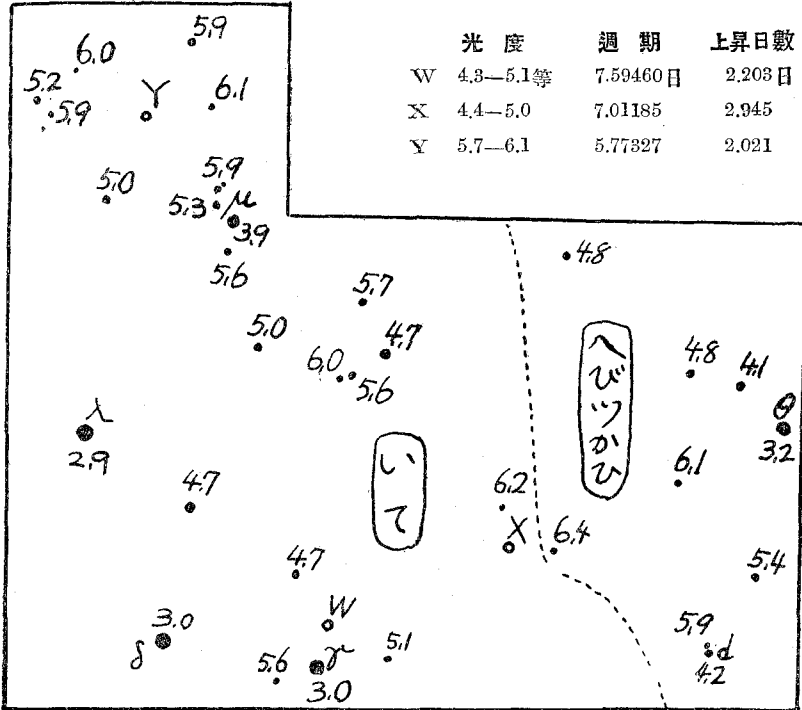
月

月の相	時刻	星座	視直經
新月	5日午後0時40分6秒	かに	33分7秒
上弦	12日午後3時1分24秒	てんびん	30分6秒
満月	20日午後6時42分18秒	やぎ	30分2秒
下弦	28日午前5時1分42秒	うし	32分7秒
近地點通過	4日午前6時12分	ふたご	33分13秒
遠地點通過	16日正午	いて	29分29秒

今月の月はなかなか忙がしい遊星歴訪をするのであるが、其の割に、觀望に適する様な時刻に起る事が一度もないので、甚だ物足りぬ感じがする。先づ最初は、既に1日午前9時に木星に追ひ付く事から始まり、次いで翌2日正午には金星の北側を追ひ抜く。次は5日午後9時で、水星の北側を通り過ぎる。續いて翌6日午後8時には海王星を後にして、8日午後2時に火星の北側を追ひ越して通る。此れは日中ではあるが、丁度其頃、兩者は南中する頃であるから望遠鏡の所有者丈は、此の景色を見る事が出来る。併し兩者の距離4度であるから、あまり珍景でもない。15日午前9時土星と出合つて、その南側をすれ違ふ。24日午前4時天王星と出合ひ、28日午後11時には兩ひ木星に追ひ付き、31日夜半後即ち翌日午前1時には更に金星を追ひ抜いて、やつこ今月の歴訪を終る。

變光星

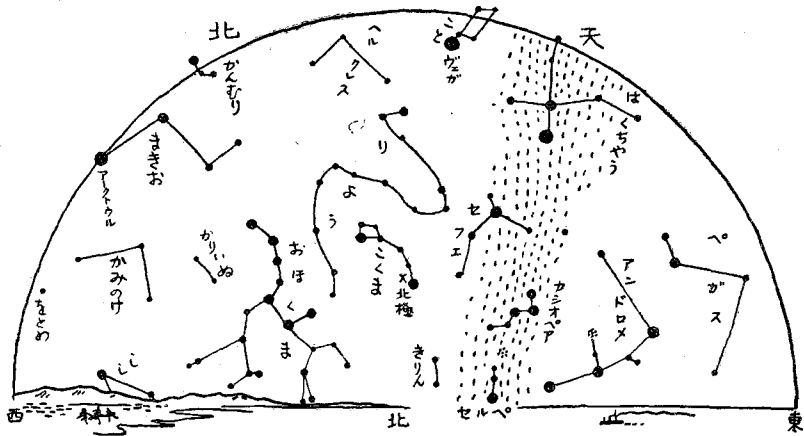
本會觀測部が活躍してゐるから、大いに利用されて、會員諸氏の研究を發表せられん事を御希望する。仍て、變光星の代表的星、即ち「こゝ」座ベ星、「セフェ」座デ星、アルゴール星、ミラ星、「かんむり」座R星、「ふたご」座U星、等々、本誌上で耳にたこが、否眼にたこが出来る程、讀まされた事と思ふので、此處では眼先を變へて、すつと南方の星を御紹介しやう。圖に依つてお分りの様に「いて」座の X, Y, W の三星である。



上昇日數は極小から極大までの日數である。變光曲線は何れも「セフェ」座デ星型と云ふてよい。且つ三星共に光度が變化するに従つて、極小僅かではあるが、色が白から黄へ變化する。

流星群

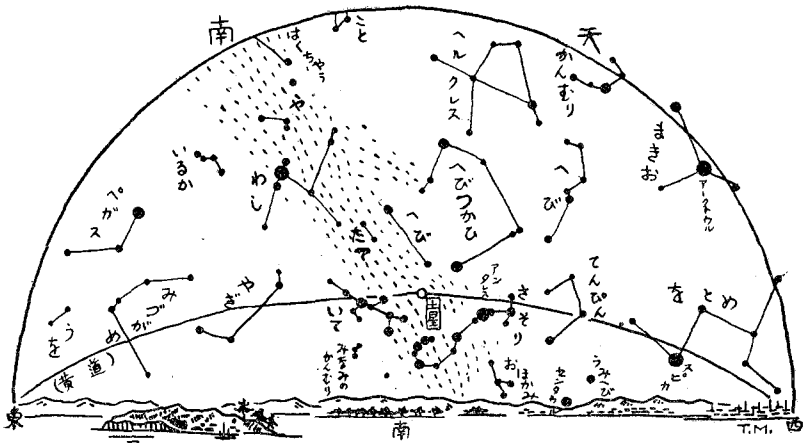
今月は例年の通り、10日より12日頂にかけて、「ペルセ」座流星群が現はれる。可成り著しいものであつて、時刻は午前1時頃から3時頃までである。輻射點は、赤經3時0分、赤緯北57度附近である。これと同じ頃に、「こゝ」座流星群がある。輻射點は赤經18時40分、赤緯北44度附近である。



恒星界

夏休みもなつた。山のキャンプへ、又海水浴場へ。いづこへ行つてみても、なつかしく眺められるものは、宵の南天を壓して輝く「さそり」の星座が、何んぞ云つても第一であらう。特に、遊星界の大立物たる土星が、美しい環を見せながら、此の「さそり」座に近い銀河中を彷徨してゐるのだから、殊更らに、此の附近には興味を引かされる。

丁度今、子午線を通過してゐるのは、「さそり」、「へびつかひ」、「ヘルクレス」、「りょう」、「こぐま」等で、「しし」や「おこめ」は既に、西山に低く、夏の星座で全天は一ぱいになつてゐる。銀河は南北に流れて、七夕の夫婦星は殆んで天頂近くまで上つて來てゐる。舊曆で行くこ今月11日が7月7日に當るので、七夕祭の日になるわけである。七夕祭の夜には失張り、上弦の月があつた方が、傳説も合致して、一層情趣が沿ふて良い。従つて、此の祭は舊曆に従ふか、又は新曆に依つても、少なくとも、7月中の上弦の夜をトして行はれたいものである。



遊 星 界

水星 月始めは太陽に近くて見えないが、月末には太陽より20度離れて宵の西天に、0等星さして輝き、視直経は6秒程に増加する。10日の夜に獅子座 α 星の北側約1度の所を、更に12日早朝には海王星の同じく北側約1度の邊を通り過ぎる。

金星 曉の星さして「おうし」の東端より「ふたご」を通つて「かに」の西端に達する。次第に太陽に接近しつゝあつて、光度負4等、視直経15秒、共に徐々に減じつゝある。

火星 宵の星で次第に太陽に近づく。「しし」より「おみめ」に移る。観望不適。

木星 曉の星「うし」座の中央を順行中。光度負2等、視直経36秒。

土星 愈々観望にはよくなつて来る。午後9時頃南中。「へびつかひ」東端を逆行中、で光度0等、視直経は15秒、共に徐々に減少してゐる。見る時刻から云へば都合はよくなるが、次第に遠去る故、其點からは都合は悪くなる。

天王星 夜半には東天に登る。「うを」の中央に6等星さして輝やいてゐる。

海王星 「しし」にあるが太陽に近く、観望は駄目である。